

小 学 校

平成 2 6 年度

# 教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	2
IV	研究方法	2
V	研究構想図	3
VI	研究内容	
1	調査研究	4
2	実践研究	7
	検証授業① 第6学年 学級活動(1)	7
	検証授業② 第5学年 学級活動(1)	10
	検証授業③ 第6学年 学級活動(2)	13
	研究の視点に関する実践例	16
VII	研究の成果と課題	22

## 研究主題

# 主体的に活動し、自ら学級や学校づくりに参画する児童を育てる指導の工夫 ～高学年としての役割を意識した学級活動の展開～

## I 研究主題設定の理由

知識基盤社会の到来、グローバル化の進展など急速に社会が変化する中、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断や、他者と切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々との共存など、変化に対応する能力が求められている。子供たちは、急速に変化する社会をたくましく生きるために、共生社会の担い手としての豊かな人間性を身に付ける必要がある。豊かな人間性は、集団活動を通じて、社会性や協調性を養い、育まれるものである。これは、現行の学習指導要領において、よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成が重視されていることから分かる。

また、東京都教育ビジョンの主要施策に「思考力・判断力・表現力等を育成し、時代の変化や社会の要請に応える教育の推進」とある。特別活動における「思考力・判断力・実践力」とは「集団の一員としての役割を自覚し、望ましい人間関係を築きながら、集団生活や自己の生活の充実と向上について考え、判断し、自己を生かして実践する。」(国立教育政策研究所「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」) ことである。

以上のことから、「望ましい集団活動を通して、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養おうとする特別活動が果たすべき役割は大きい。」(「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)」教師向け指導資料) と考え、本研究に取り組む。

研究員の所属校における第5・6学年の児童を対象とした実態調査アンケート結果から、次のようなことが明らかになった。

- ・学級をよりよくしたい気持ちをもっている。
- ・友達と一緒に活動することが好きである。
- ・自分の考えを伝えることに自信がもてない。
- ・「自分は役立っている」と思う児童が少ない。
- ・自尊心や自己有用感、自己肯定感が低い。

このような実態から、「主体的な態度を育成する」「所属意識や連帯意識をもたせる」「自発的・自治的な実践力を高める」「自己肯定感や自己有用感を高める」ことが喫緊の課題と捉え、研究主題を「主体的に活動し、自ら学級や学校づくりに参画する児童を育てる指導の工夫～高学年としての役割を意識した学級活動の展開～」とした。そして、研究主題に迫る具体的な目指す児童の姿を次のように設定した。

- ・友達のよさを認め、互いに信頼し協力し合う児童
- ・自発的、自治的に楽しく豊かな学級や学校の生活をつくらうとする児童
- ・自分への自信を高め、自分のよさや可能性を生かそうとする児童

本研究では、児童一人一人が学級生活において、所属意識や連帯意識をもつとともに自発的・自治的な実践力を高めることによって、学級づくりに参画しようとする態度が育ち、さらに高学年としての役割を意識した学校づくりに発展させることによって、自己肯定感や自己有用感を高めることにつながるという視点に基づき研究することとした。

## II 研究の視点

研究主題より、3つの視点を設定し、研究を進めることとした。

### 1 所属意識・連帯意識をもたせる

主体的に活動し、自ら学級や学校づくりに参画する児童には、互いに信頼し、協力し合う姿が期待される。信頼し、協力し合う関係をつくるには、安心して自分の考えを伝えたり、友達のよさを理解したりする話し合い活動の経験が必要である。児童による学級の目標を目指した話し合いを充実させるために、発達段階や学級の実態に基づいた多様な内容を扱わせたい。児童が互いに目的意識を共有することで、集団における自分の役割が明確になり、所属意識や連帯意識をもたせることができると考えた。

### 2 自発的・自治的な実践力を高める

主体的に活動し、自ら学級や学校づくりに参画する児童には、自発的、自治的に楽しく豊かな学級や学校の生活をつくろうとする姿が期待される。そこで、児童が互いに協力し合い、学級のために創意工夫ができる係活動や集会活動等を多く経験させたい。特に高学年は学級にとどまらず、学校生活全体に関わる集団活動をつくっていく時期である。高学年の児童は学級生活を土台とし、実践を積み重ねながら学校づくりへ活動の場を広げていくことでより自発的、自治的な実践力を高めることができると考えた。

### 3 自己肯定感・自己有用感を高める

主体的に活動し、自ら学級や学校づくりに参画する児童には、自分への自信を高め、自分のよさや可能性を生かそうとする姿が期待されるが、実際には実態調査から、自己肯定感や自己有用感が低いという結果となった。そこで、学級会や集会活動後に児童が互いに認め合えるようなカードを活用し、振り返りの場を充実させる等、教師や友達からの評価を受けることができる取組を行うことで自己肯定感や自己有用が高まると考えた。

## III 研究仮説

研究の視点を追究していくことで、研究主題に近付けると考え、以下を仮説とした。

児童一人一人が学級生活において、所属意識・連帯意識をもち、自発的、自治的な活動の実践、振り返りを行い、友達に認められたり、自分に自信をもったりすることができれば、自己肯定感・自己有用が高まるであろう。このような学級づくりを積み重ねていくことで、高学年としての役割を意識した学校づくりに参画しようとする児童が育つであろう。

## IV 研究方法

### 1 調査研究

- (1) 調査方法・・・質問紙による
- (2) 調査対象・・・教育研究員所属都内公立小学校10校の第5～6学年児童

### 2 実践研究

- (1) 学級活動（1）における検証授業
  - ア 話し合い活動
  - イ 話し合い活動の実践
- (2) 学級活動（2）における検証授業
  - ア 話し合い活動のガイダンス的な活動
  - イ 話し合い活動の課題解決に向けた活動

## V 研究構想図

### 小学校学習指導要領特別活動編 (平成 20 年 8 月) 特別活動改訂の趣旨

- ・よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成の重視
- ・子供の自主的、自発的な活動の重視
- ・体験活動や生活を改善するため話し合い活動の重視
- ・体験を通して感じたり、気付いたりしたことを振り返り、言葉でまとめたり、発表し合ったりする活動の重視

### 児童の実態 (実態調査の分析から)

- ・学級をよりよくしたい気持ちをもっている。
- ・友達と一緒に活動することが好きである。
- ・自分の考えを伝えることに自信がもてない。
- ・「自分は役立っている」と思う児童が少ない。
- ・自尊心や自己有用感、自己肯定感が低い。

### 目指す児童像

- ・友達のをさを認め、互いに信頼し協力し合う児童
- ・自発的、自治的に楽しく豊かな学級や学校の生活をつくらうとする児童
- ・自分への自信を高め、自分のよさや可能性を生かそうとする児童

**研究主題** 主体的に活動し、自ら学級や学校づくりに参画する児童を育てる指導の工夫  
～高学年としての役割を意識した学級活動の展開～

### 視点 1

#### 【所属意識・連帯意識をもたせる】

- ・話し合い活動の充実
- ・学級目標の活用

### 《研究仮説》

児童一人一人が学級生活において、所属意識・連帯意識をもち、自発的、自治的な活動の実践、振り返りを行い、友達に認められたり、自分に自信をもったりすることができれば、自己肯定感・自己有用感が高まるであろう。このような学級づくりを積み重ねていくことで、高学年としての役割を意識した学校づくりに参画しようとする児童が育つであろう。

### 視点 3

#### 【自己肯定感・自己有用感を高める】

- ・成功体験の積み重ね
- ・価値付けの可視化
- ・評価(個人/相互/教師)
- ・活動の振り返り

### 視点 2

#### 【自発的、自治的な実践力を高める】

- ・教師の助言の工夫
- ・実践の積み重ね
- ・係活動の充実

## VI 研究内容

### 1 調査研究

#### (1) 調査目的

- ア 研究の仮説と視点を検証するために、学級活動に対する意識について実態把握を行う。
- イ 児童の実態を把握し、適切な指導の手だてを設定する。

#### (2) 調査対象

研究員の所属する都内公立小学校 10 校 全 37 学級 回答総数 1,254 人

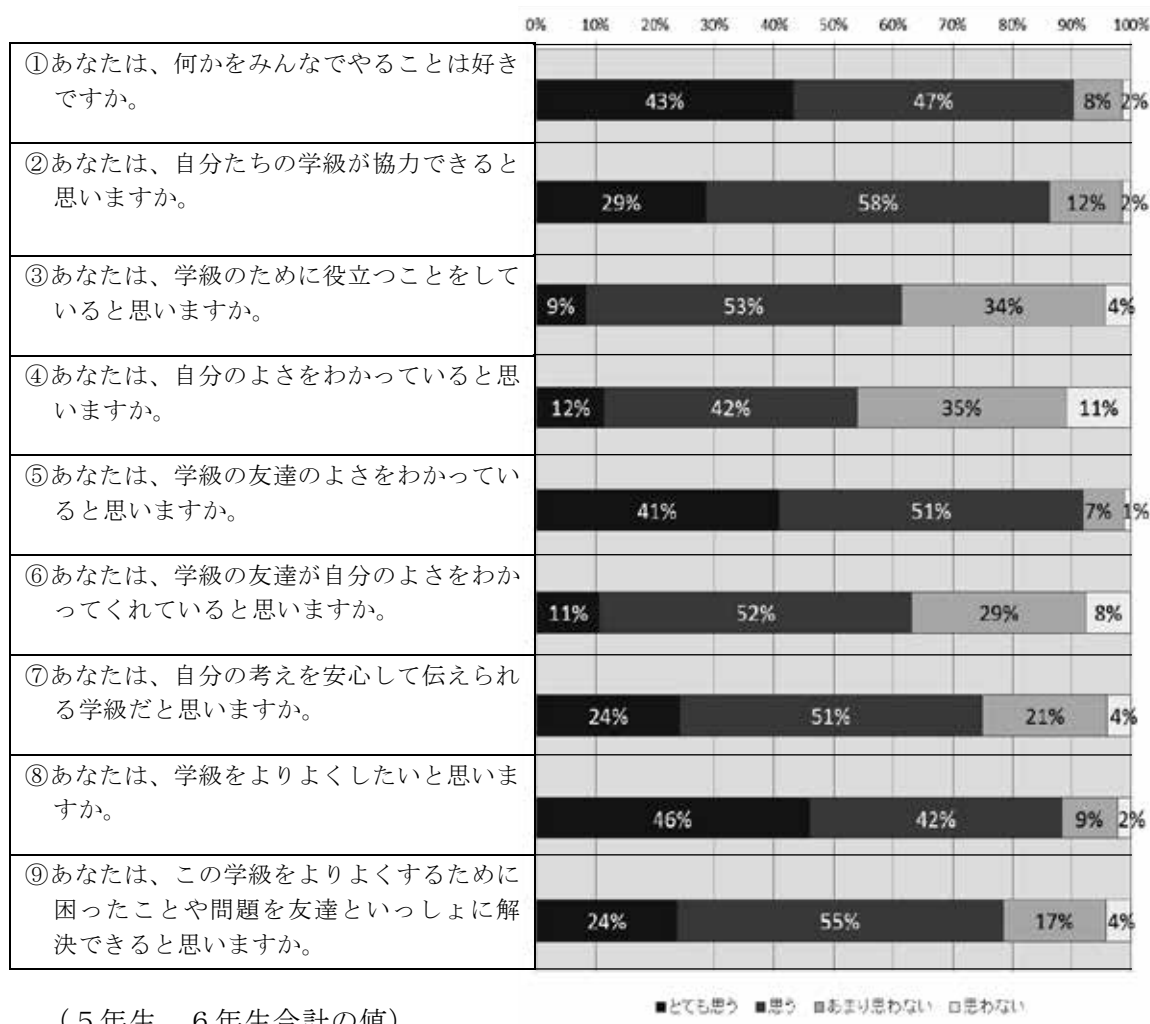
調査対象学年	調査を実施した学級数
都内公立小学校第 5 学年	21 学級
都内公立小学校第 6 学年	16 学級

#### (3) 調査時期

平成 26 年 7 月

#### (4) 調査結果

10 項目のアンケート形式で行った。項目は次の通りである。



(5年生、6年生合計の値)

①～⑨までは、[とても思う、思う、あまり思わない、思わない]の中から選び、⑧と⑨については、理由を記述する欄を設けた。⑩については、記述のみの回答で行った。

⑩この学級において「楽しい」と感じることはどんな時ですか。

- ・友達といるとき ・休み時間に遊んでいるとき ・体育のとき ・給食のとき
- ・クラス遊びをしているとき ・話し合って決まったことを実践するとき
- ・みんなが笑顔のとき ・自分の意見が言えたとき ・いろいろな意見ができるとき
- ・みんなが協力しているとき ・協力して達成したとき
- ・みんなが同じことをやっていて楽しいとき ・男女が仲よく活動するとき など

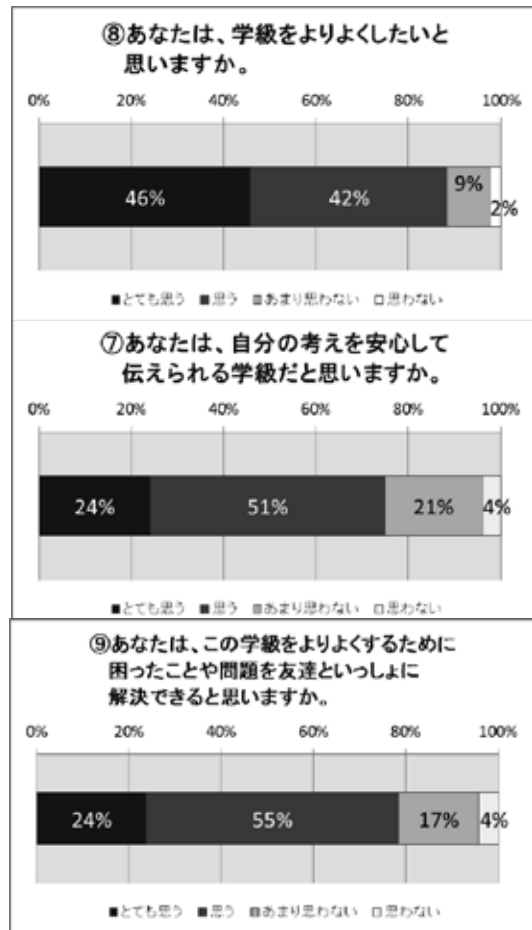
(5) 調査結果の分析

調査の結果を仮説検証の視点1、2、3に沿って考察する。

<視点1 所属意識・連帯意識をもつ>

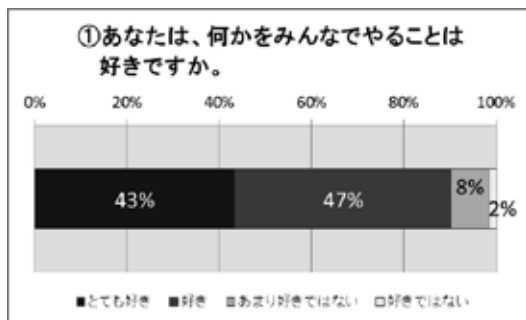
質問⑧「あなたは、学級をよりよくしたいと思いますか。」で、肯定的な回答が9割近くを占めた。その背景には、自分の学級への愛着や誇りをもっていることが伺え、学級への所属意識はすでに高くもっていると捉えた。そして質問①の「あなたは、何かをみんなでやることは好きですか。」では、とても好き、あるいは好きであると回答した割合が、こちらも9割を占めた。このことから、連帯意識も根付いていると捉えることができる。

一方で、質問⑦「あなたは、自分の考えを安心して伝えられる学級だと思いますか。」と、質問⑨「あなたは、この学級をよりよくするために困ったことや問題を友達といっしょに解決できると思いますか。」の2つの質問においては、肯定的な回答が7割台と若干低い傾向が明らかとなった。質問⑨の児童の記述には、「困難を解決した経験が少ない。」「話し合いがうまくいかない。」といった、学級生活づくりの上での経験が不足している実態も見受けられた。児童が目的意識を共有したり、役割意識を明確に自覚したりするような場面を、教師が意図的に設定し、学級生活づくりの多様な活動を充実させていくことで、さらに高い所属意識や連帯意識を児童にもたせることが必要であると考えた。



<視点2 自発的、自治的な実践力を高める>

質問⑩「この学級において楽しいと感じるときはどんなときですか。」は、記述による回答の形式をとった。児童の回答には、遊びや教科、学級の雰囲気に関することなど、自分が楽しいと感じるときを思い思いに書き記してあった。その中で注目した記述は、「みんなが協



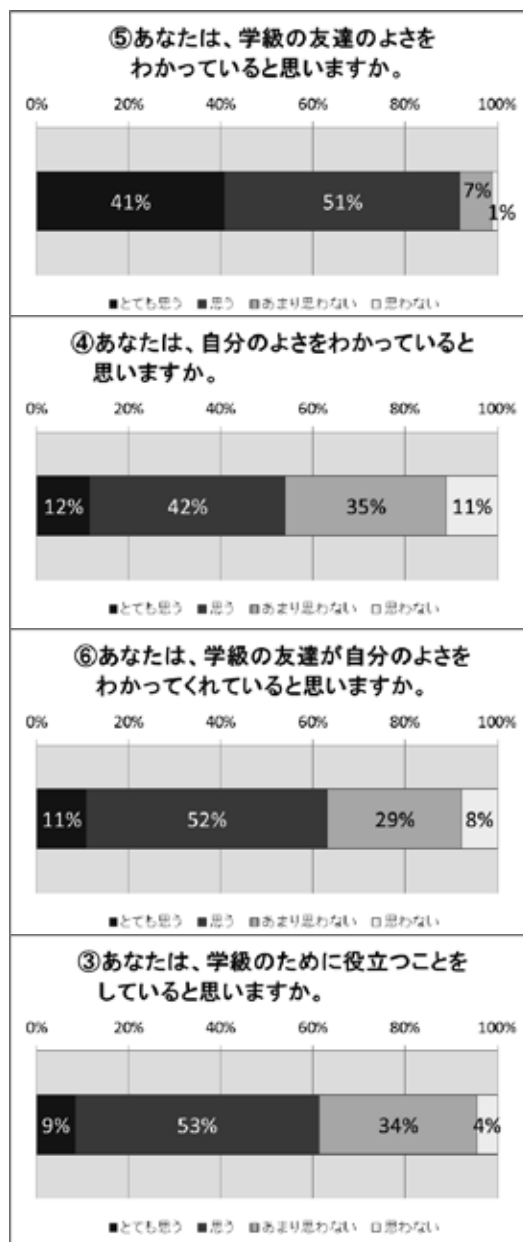
力しているとき。」「協力して達成したとき。」「話し合って決まったことを実践するとき。」「男女が仲よく活動するとき。」「みんなが笑顔でいるとき。」などである。これらの記述は複数の学校に共通して見られた。

また、前述の通り、質問①の「あなたは、何かをみんなでやることは好きですか。」では、とても好き、あるいは好きであると回答した割合が9割を占めた。このことから、楽しく豊かな学級生活をつくりたいという思いが育っていく中で、上記のような場面で達成感や満足感を得られたことが「楽しい」と感じたのだろう。高学年は、学級にとどまらず、学校生活全体に関わる集団活動をつくっていく時期である。記述に見られるような協同の活動を楽しんだり、よりよい生活を築こうとしたりする児童の思いを高め、それらを学校生活へ広げていくためには、学級生活を土台とし、実践を積み重ねながら、自発的、自治的な態度を更に伸ばしていくことが大切であると考えた。

### <視点3 自己肯定感・自己有用感を高める>

質問⑤「あなたは、学級の友達のよさをわかっていると思いますか。」については、9割を超える児童が、友達のよさを分かっていると答えた。それに対して、質問④「あなたは、自分のよさをわかっていると思いますか。」については、自分のよさを分かると答えた児童は5割程度であった。質問⑥「あなたは、学級の友達が自分のよさをわかってくれていると思いますか。」についても肯定的な回答は6割程度であった。また、質問③「あなたは、学級のために役立つことをしていると思いますか。」についても、自分が学級で役に立っていると考えている児童の割合は6割程度であり、これらはあまり高い割合とは言えないと考える。

以上のことから、友達のよさは見付けられ認められる一方で、自分に対してはよさを見出せない児童が多いことが分かった。また、学級での集団活動に自信や誇りをもって参加できていない児童がいることも伺えた。活動の振り返りによる自己評価や教師からの価値付け、児童の相互評価などを充実させ、自己肯定感・自己有用感を高めることが必要であると考えた。





## 2 実践研究



### 【検証授業①】「連合運動会を盛り上げる工夫を決めよう」第6学年 学級活動(1)

#### 【活動の概要】

連合運動会のねらいは、他校の児童と競技や演技を行い、互いに見学し合うことを通して、児童相互の交流・体力向上を図るものである。本議題は、「区の連合運動会に向けて、クラス一丸となって取り組みたい」「せっかくの連合運動会を充実させたい」という児童の願いから選定された。教師も、6年生として、学校の代表として参加する区の連合運動会に向けて、学級がまとまって取り組んでほしいという願いもあった。

事前に計画委員が、学級全体から盛り上げる工夫の意見を集め、それを書いた短冊を用意しておいた。また、盛り上げる工夫の理由も話せるよう準備しておいた。さらに、計画委員が事前に意見を分類し、意見の意向を把握するとともに、話合いの進め方を確認した。

《本時の様子》

児童の活動	○指導上の留意点 児童の変容  考察 
1 はじめの挨拶 2 司会グループの紹介 3 議題、提案理由の確認	○すでに決まっていることを確認する。 日時：10月23日（金）連合運動会 場所：砧競技場
<p>【議題】「連合運動会を盛り上げる工夫を決めよう」</p> <p>【提案理由】みんなで連合運動会を盛り上げることで、もっとクラスの団結を深めたいから。</p>	
4 話合い <b>柱1</b> 盛り上げる工夫を決める （出された意見） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボンボン ・メガホン ・うちわ</li> <li>・扇子 ・応援団 ・チクサクコール</li> <li>・円陣 ・小さな旗 ・大きな旗</li> <li>・長縄練習</li> </ul> （賛成意見） <p>「ボンボンを使って応援したら、盛り上がると思う。」</p> <p>「盛り上がるけど、団結する工夫を話し合いたい。」</p> <p>「メガホンは、小さな声の人でも大きい声で応援できるから、いい。」</p> <p>「メガホンを作ってみんなで応援することで、みんなが応援しやすくなる。」</p>	○自分たちで解決できるように、助言が必要なとき以外は見守り、記録を取る。 ○話合いが自治的な活動の範囲を超えた場合は、話合いを止めてその場で指導する。 ※チクサクコールとは、円になって肩を組み、コールをかけるもの <div style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案理由の「盛り上げる」と、話合いのめあての「団結」の2つの言葉が出ていたので、1つの言葉に絞ったほうがよかった。</li> <li>・メガホンの捉え方が曖昧だった。事前に提案者が説明したり、実物を用意したりしてイメージを共有しておいた方がよかった。</li> </ul> </div>

「運動会で応援歌を歌って、団結できた。」  
「チクサクコールは、今までも団結できたし、盛り上がった。」

「運動会でチクサクコールをやって成功できたから、連合運動会も成功すると思う。」

「チクサクコールと円陣を一緒にする。」

「どちらもみんなで気合いを入れようとするものだから同じにしてもいい。」

「運動会の時に同じ旗を振ったら、団結できた。」

「経堂小マークの旗があると経堂小という一つのチームという感じがする。」

「経堂小の6年生として、経堂小の代表として、参加するから、校章を入れたほうがいい。」

## 柱2

役割分担

- ・ 応援団 ・ 大きな旗 ・ 小さな旗
- ・ チクサクコール ・ メガホン
- ・ 長縄練習

- 5 決まったことの確認
- 6 振り返り
- 7 先生の話（終末の助言）
- 8 おわりの挨拶



今までの経験、運動会での経験から、理由を付けて、意見を言えた。

2つの意見を生かす意見を提案することができた。

経堂小の代表、経堂小の6年生として、区の連合運動会に出ることを意識して発言できた。



- 感想やこれからの考え、頑張っていた友達について振り返りカードに記入させる。
- 今日の話合いのよさを認めて賞賛し、必要に応じて課題を投げ掛ける。

終末の助言では、研究の視点に基づき、次の3点について話をした。

- ① **学校への所属意識【視点1】**  
経堂小の代表として、経堂小の6年生として参加しようということについて、称賛した。
- ② **仲間との連帯意識【視点1】**  
今までの経験、話合いの積み重ねの結果、たくさんの意見を提案理由に沿って発言し、友達の意見をよく聞き、話合いをつなげられたことを称賛した。
- ③ **計画委員の取り組み【視点2】**  
話合いが充実したものになるよう、事前の準備がしっかりできていたこと、計画委員の協力について称賛した。

## 【実践】

### ① 事前準備

連合運動会に向けて、全員が役割をもつことで、所属意識や連帯意識が高まった。また、提案理由の「盛り上げよう」や「クラスの団結」のために、準備をする姿が見られた。準備の時間の前に、あらかじめ必要なものを確認し、持ち物を分担している係もあった。校章の入った大きな旗には係のアイディアで、一人一人の意気込みを書き入れた。応援団も、応援と応援歌を作り、模造紙に応援の順番と応援歌を書いた。帰りの会などで、応援の練習をした。長縄は、朝休みや休み時間を使って練習し、飛び方のコツをまとめて声掛けをした。連合運動会前日には、教室でチクサクコールをして、本番当日に向けて学級を盛り上げた。進んで準備する児童が多く、自発的な態度が見られた。

### ② 当日

連合運動会当日も、準備した応援グッズのメガホンや小さい旗を使って応援をした。校章の入った大きな旗は、スタンドの下に貼り、経堂小の代表であることを示した。



メガホンや小さな旗を使って、進んで応援することができた。

大きな旗をかざって、クラスの団結を深め、競技への意欲が高まった。

## 【振り返り】

所属意識・連帯意識の変容を確かめるため、個人だけでなく学級としての振り返りも行った。

### ① 事前準備

「応援の順番や応援歌を決めて、みんなが応援できるようにした。」「事前に準備できていない係を手伝えよかった。」

### ② 当日

「競技に出ている友達に応援グッズを使って応援し、クラスの団結を深めることができた。」「長縄の時、大きな声が出せて、みんながまとまった。」「当日の応援を人任せにしている人がいた。もっと声を掛け合えればよかった。」  
よかったところと、次に改善した方がよいところの両方の意見が出された。

## 【考察と児童の変容】

学級会で連合運動会に向けての取組を話し合うことで、経堂小の代表として参加する意識、みんなで協力して参加する意識を高められた。一人一役の係分担をすることで、所属意識や連帯意識を高めることにつながった。その後の学習発表会でも、自分たちの発表を自分たちで創ろうと互いに声を掛け合う姿が見られた。

準備は、係の中で進んで活動したり、みんなに声を掛けて一緒に準備をしたりする姿が見られた。当日も用意したものを使って、応援をすることができた。自発的、自治的な態度を育てることにつながった。

【検証授業②】「5-2 スポーツ大会の種目を決めよう」第5学年 学級活動(1)



【活動の概要】

本議題は「スポーツの秋にふさわしい集会をしたい。」「運動が好きではない友達も、みんなと一緒に楽しく汗をかける会を開きたい。」との児童の願いから選定された。

計画委員は事前に提案者と話し合い、願いを確認した。そして提案理由を「スポーツの秋で季節に合っていて、クラスでスポーツをすればみんなで動くことが好きになり、元気なクラスになると思うから。」とした。「元気な」はクラス目標を意識した言葉であり、学級への所属意識の高まりが感じられるものであった。

本時の活動では、まずスポーツ大会の種目決めについて話し合い、次に役割分担を行った。話し合いでは提案理由を意識した発言が多く出された。反対意見として「勝敗にこだわりすぎてしまうことが心配だ。」などが挙げられたが、別の児童から「心配ばかりしては何もできなくなる。」「その種目の利点に目を向けよう。」といった意見が出されたことで話し合いが収束に向かい、時間内にすべて決定することができた。

<本時の様子>

児童の活動	○指導上の留意点 児童の変容  考察 
1 はじめの挨拶 2 司会グループの紹介 3 議題、提案理由の確認	○ すでに決まっていることを確認する。 日時：11月7日（金）5時間目 場所：体育館 チームは6チーム。種目は2つ決める。
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>議題 「5-2 スポーツ大会の種目を決めよう」</p> <p>提案理由 スポーツの秋で季節に合っていて、クラスでスポーツをすることで、みんなで動くことが好きになり元気なクラスになると思うから。</p> </div>	
4 話し合い <b>柱1</b> 種目を決める (出された意見) ・バレーボール ・ドッジボール ・フットサル ・バスケットボール ・トレイントレイン  (賛成意見) 「パスをつないでいくことでみんなと協力ができると思ったから。」 「男女関係なくみんなが楽しめるから。」 「みんながしたことのある遊びで、安心してできると思ったから。」	○ 児童の自治的範囲を超えた場合や人権上問題のある発言があった場合、話し合いが混乱した場合には、その場ですぐに指導・助言をする。 ○ 児童の発言に対して大きくうなずくなど、話し合いを方向付けるようなことがないように留意する。  <div style="border: 2px solid black; border-radius: 25px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>「トレイントレイン」は学級で行ったことのない遊びである。この意見を出した児童は「提案理由に『動くことが好きに』とあるから、トレイントレインがいいと思いました。」と説明した。これに対し「みんなが知らない遊びだから少し心配」との意見が出された。</p> <p>このとき、「ルールを知っている人から教わればよい。」などの意見が児童から挙げれば、新しい遊びを提案した児童は自己有用感が高まり、また、学級集団としては自発的、自治的な実践力が育まれるものと考えられる。</p> </div>

(反対意見)

「けんかになるかもしれない。」

「勝敗にこだわりすぎるのが心配である。」

このとき、積極的に自分の考えを出す児童がいる一方で、自分の考えをなかなか伝えることのできない児童もいた。話し合いの前に、どの子も議題と提案理由を十分理解し、「5年2組のみんなでこの議題について話し合いたい、決めたい。」と思えるようにすることが大切であった。

### 柱2

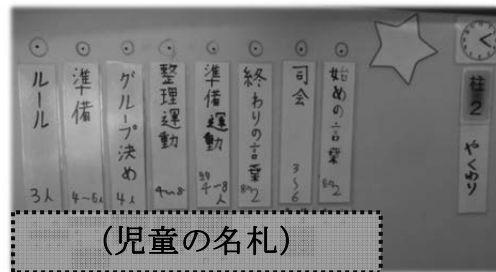
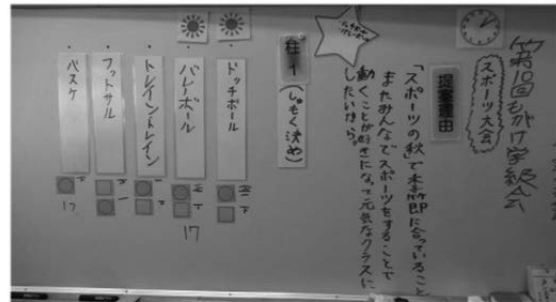
役割分担

- ・ はじめの言葉
- ・ 終わりの言葉
- ・ 司会
- ・ チーム決め
- ・ 準備運動
- ・ 整理運動
- ・ ルール決め
- ・ 用具準備

- 5 決まったことの確認
- 6 振り返り
- 7 先生の話（終末の助言）
- 8 おわりの挨拶



反対意見に対して、「それはどの種目になっても当てはまる。」「それを気にするのではなく、利点に目を向け考えたほうがよい。」との意見が児童から出された。この意見は児童の心に刻まれ、振り返りカードに「よさに目を向けて話し合えるようにしたい。」等、次の活動に生かそうとする振り返りが多く見られた。



- 終末の助言では、話し合いの中で見られたよい姿を取り上げ具体的に称賛するとともに、次の活動につながる助言を行う。

終末の助言では、研究の視点に基づき次の4点について話をした。

#### ① 心配や不安に対する提案の価値【視点1】

反対意見で出た心配や不安に対し、「その心配はこうすれば大丈夫ではないか。」と提案し、安心してもらえれば皆の力で解決したということになる。そして、学級の連帯感が深まることにもつながる、と伝えた。

#### ② 学級全体のことを考え実践した児童【視点1】

学級全体を考えた行動として、役割分担時に人数の偏りを見て他の役割に移った児童を称賛した。

#### ③ 決定の方法【視点2】

賛成意見は少ないものの反対意見が1つもない種目が今回選ばれなかった。反対意見がないことの価値を伝え、それを決定とする方法もあると助言した。

#### ④ 計画委員(司会グループ)の取り組み【視点2】

話し合い前の準備から熱心に取り組んでいたことを、具体的な姿とともに紹介した。また、本時の話し合いにおいて時間内に意見をまとめ、決定することができたことなどを称賛し、労をねぎらった。

## 【実践】

### ① 実践の準備

児童は休み時間などを利用し、係ごとに集まり準備を進めた。活動の進み具合や皆に協力してもらいたいことは朝・帰りの会の中で伝え合うこととした。このような場を確保したことで児童の意欲は高まり、また、発意・発想を生かして活動する姿が見られた。

また、その都度教師から称賛や励ましの言葉を掛け、活動の価値付けを行った。

### ② 当日の様子

はじめの言葉で、「みんなで楽しく汗をかきましょう。」と話がなされた。これは、話し合い時の提案理由を意識していることである。活動中にも「ドンマイ！」『楽しく』が目標だからミスは気にしないで。」等の声が聞かれた。終わりの言葉では、「今日は楽しく運動して汗をかくことができましたか。」とねらいに立ち戻る言葉が掛けられ、全員が手を挙げて応える姿が見られた。



集会全体を通し、児童は時間に対する意識が高かった。皆で協力して用具の出し入れや実践を進め、決められた時間内に全てを行うことができた。

これらのよい姿を、集会中の「先生の話」のほか、帰りの会でも取り上げて称賛した。

## 【振り返り】

活動後に振り返りを実施した。このとき、感想だけで終わらないよう、「自分の役割を果たせたかどうか。」という視点を示した。

みんなが楽しめ、協力し合うスポーツ大会となるように自分の役割をしっかりと果たしました。

準備の時、今日の会が成功するためにはどうしたらよいかをみんなが考えていて、とても素敵に思えました。私も、「準備」の仕事がすばやくできるようにがんばれたと思います。



## 【考察と児童の変容】

一連の活動を通し、児童の活動や頑張りを、具体的な姿を挙げながら称賛することの重要性が明らかとなった。本活動後、児童は、称賛されたことをさらに発展させて活動するようになった。児童に「よりよい学級をつくりたい。」との思いを育むことは、自発的、自治的な活動へとつながる。そして、このような活動の経験を学級の中で積み重ねることで児童は、「よりよい学校をつくりたい。」という意識をもつようになっていく。

学級会后、2学期に転入してきた児童が次のような振り返りを書いた。「私は初めての転校で、これまで緊張していてなかなか手を挙げられずにいた。でも今日の学級会では手を挙げて発言することができた。意見を出せて嬉しかった。」この日を境に本児は、学級集団の中で積極的に自分の考えを発表するようになった。話し合い活動の中で意見を出したことが自信につながり、学級への所属意識が高まったことによる変容である、と考察する。

【検証授業③】「二小まつり成功への道！」 第6学年 学級活動（2）



【活動の概要】



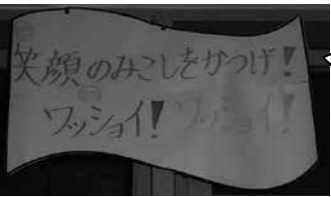
二小まつりは、「今までに経験したり、学んだりしてきたことを生かしてお店を開き、協力して活動しようとする、自主的・実践的な態度を育てること」「異学年や地域の人との交流を図ること」がねらいの行事で、児童だけでなく保護者や地域の方々も楽しみにしている行事である。二小まつりへの取組を通して、「希望や目標をもって生きる態度の形成」「望ましい人間関係の形成」を図り、学級や学校の中で最高学年としての役目を果たし、主体的に活動する児童を育てたいと考え、本題材を設定した。

最高学年として「二小まつりが単なるお店づくりや遊ぶだけの活動にならないように、目的意識をもって活動できるようにする。」「学校全体のことを考えながら、異学年や地域との交流を図り、より一層望ましい人間関係を築いていく力を養っていく。」というねらいの下、具体的な行動目標を立てられるようにしたい。

本時の活動では、関わりの深い1年生からのアンケートやインタビュー映像を活用した。6年生のお店に対する楽しみなことを語る1年生の姿を見て、自分たちの二小まつりへのやる気や最高学年としての自覚の高まりが見られた。また、一人一人の成功へのイメージが沸き、グループで活発に話し合いが行われた。全体で成功のイメージを共有し、行事に対しての熱い思いや自分のめあてをしっかりと見つことにつながった。二小まつりの準備や当日の活動では、授業中に話し合った成功の姿を意識した行動が随所に見られ、二小まつりを大成功に導くことにつながった。

<本時の様子>

	学習活動	○手立て 児童の変容  考察 
導入	<p>1 低学年の時のことを振り返り、二小まつりに何を期待していたのか確認する。また、現在の1年生の楽しみなことを知る。</p> <p>【自分たちが低学年の時】 「6年生のお店に行くこと」 「上級生のお店に行くこと」 「友達と遊ぶこと」</p> <p>【現在の1年生】 「6年生のお店に行くこと」 「的にあてるのが楽しそうだから1組のお店に行きたい。」 「6年生がもうすぐ卒業だから一緒にいっぱい遊びたい。」</p>	<p>○アンケート結果をもとに、低学年の時を振り返る。また、現在の1年生が楽しみにしていることを知り、最高学年という立場を意識付ける。(アンケート・インタビュー映像を提示する)</p> <p>自分たちが1年生の時に二小まつりに期待していたことと、今の1年生が期待していることが一致していることで、やる気が高まった。</p> <p>1年生からのVTR資料は、日頃関わりの深い1年生から期待されているということを実感できる効果的な資料だった。その資料を提示することで、「6年生として、1年生や他の学年のために最高のお店を作りたい」という思いをもち、二小まつりの成功の姿を考えることにつながった。</p>

<p>展開</p>	<p>2 二小まつりの成功の姿を考える。(個人)  「全学年や地域の人に楽しんでもらい、6年1組で協力して学校を盛り上げること」  「下級生に喜んでもらって、笑顔になってもらうこと」</p> <p>3 二小まつりの成功の姿を共有し、どうしていけばいいのか話し合う。(グループ→全体)  「お客さんに、楽しかったと笑顔で喜んでもらうこと」  「他のお店のいいところを見つけて回ること」  <b>【成功に向けて】</b>  「お客さん(下級生や地域の方)のことを考えて準備をする。」  「接客するときは自分達から笑顔を作れば楽しんでもらえる。」</p> <p>4 二小まつりに向けて、自分のめあてを考える。  <b>【具体的な行動目標】</b>  「下級生や地域の方のことを考えて、ゲームのルールを分けて作成する。」  「当日の接客のために、毎日挨拶をするときは笑顔でする。」  <b>【抽象的な行動目標】</b>  「協力して楽しめるお店にする。」  「いろいろな子と交流を深める。」</p>	<p>○ワークシートを活用する。  ○話し合ったり考えたりする際に、学級目標を活用する。</p>  <p>事前の資料提示で意識が高まり、全員が自分なりの成功のイメージをもつことができた。</p> <p>○初めにグループで話し合い、次に全体で話し合う形式をとり、二小まつりに向けての成功のイメージを共有できるようにする。</p>  <p>グループで話し合うことで、一人一人が自信をもって、自分の考えや思いを伝え合うことができた。</p> <p>具体的な行動目標につながるようにするには、成功に向けてどう行動するのかを十分に引き出して、より具体的なものを教師が意図的に価値付けてあげることが必要であった。</p> <p>○授業内での話し合い活動を生かして、個人のめあて(行動目標)をもてるようにする。また、立てられためあてに対する価値付けを行う。</p> <p>具体的な行動目標を立てられるようにするには、他の児童のものを紹介したり、「そのためにはどうするのか」「自分にできることは何か」を問いかけたりと実態に合わせた指導を入れることが大切である。</p>
	<p>終末</p>	<p>5 友達のめあてや先生の話聞いて、二小まつりに向けての意欲を高める。</p> 



## 【実践】

### ① 事前準備

店長と各コーナーのリーダーが準備計画を立て、自分達で計画的に分担して準備を行った。二小まつりの成功の姿をイメージして、6年生として下級生のことを考えて学年別のルールを作ったり、説明の仕方を工夫したりと、最高学年としての意識をもって進める姿が多く見られた。活動中は、自分のめあてに対して毎日振り返ることで、実践への意欲も継続した。途中で教師からの評価（励ましや課題の投げかけ）を入れることで、児童は残り時間で何ができるのかを考えて実践できた。

小学校生活最後の二小まつりまで・・・あと7日！		
	各コーナー	その他
9月17日(水)	各コーナーの準備	
9月18日(木)	各コーナーの準備	
9月19日(金)		
9月22日(月)		
9月23日(火)		
9月24日(水)		
9月25日(木)		
9月26日(金)		

### ② 当日

どんどんお客さんが来て忙しいけど、なんだか今までと違ってすごく楽しいね。  
気が付けば終わりの時間、今年は時間が早く感じたね。



なかなか当たらない下級生には、的を近づけて当たりやすくしてあげよう！  
「6年生のお店にまた来たい！」って言ってくれたよ。すごく嬉しいね。

最高学年として「下級生や保育園の子たち、地域の方々と相手を考えて、ルールや言葉遣いを工夫して楽しませる。」「全体のこと(他のお店)のことも考えてお店づくりをする。」という意識が、5年生までと大きく変わった点であった。今までの楽しむだけではなく、楽しませることが喜びになることを実感した実践となった。

## 【振り返り】

振り返りでは、「6年生として低学年の子に優しく声をかけたり、臨機応変にルールを変更したりと、お客さんのことを考えながら行動できて良かった。」「今まで話したことのない下級生と話すことができ交流を深められた。」「下級生や地域の方のお店を回って、よいところを見付けられた。」「下級生の感想を聞いて、自分のやったことが学校のためになったと思うと嬉しかった。」「みんなで協力することの大切さを学ぶことができたので、次の学芸会では6年生全員で頑張りたい。」など、他学年と関わった姿や自分や友達の頑張り、この経験を次に生かそうとする内容がたくさん挙げられた。

## 【考察と児童の変容】

低学年のメッセージを受け、最高学年として期待されていることを実感することで、その期待に応えようとする高学年としての役割意識が芽生えた。「下級生のために」「学校のために」と思いをもち、一人一人がめあてを立て主体的に活動に取り組むことで成功につながった。一連の活動から、学級や学校の役に立てたという達成感や満足感を味わい、学級から学校に対する所属感や連帯感の高まりが見られた。

行事後、縦割り班活動では今まで以上に下級生のことを考えて遊びを工夫したり、委員会発表では積極的に全校の前に出て発表したりと、進んで学校づくりに参画しようとする行動が随所に見られるようになり、高学年としての役割意識が広がった。

研究の視点に関する実践例

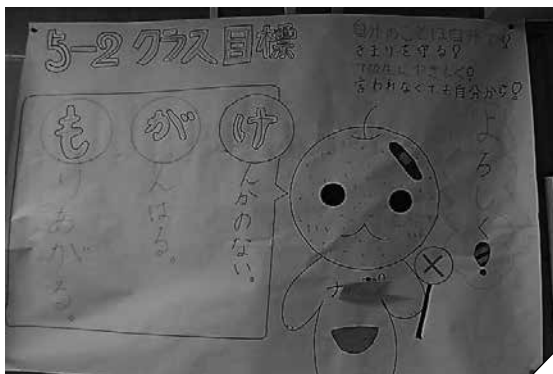
視点1 所属意識・連帯意識をもたせる

実践① 学級目標

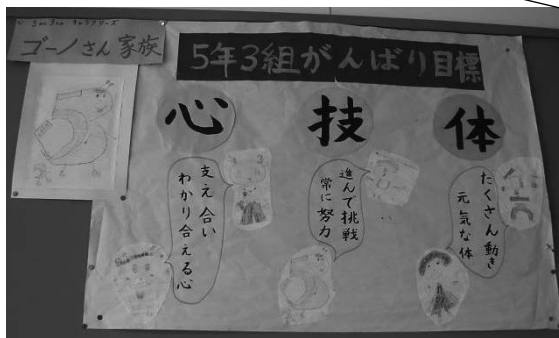


全員の考えが学級の目標に入っていることを感じられるように、一人一人の願いも目標のまわりに掲示したことで、学級の一員としての所属意識や連帯意識が高まった。(学級、学年づくり)

学校生活のあらゆる場面で、意識させることで、目標を達成しようとする児童が増えた。(学級、学年づくり)



どの児童も学級目標に愛着をもち、「私の学級の目標は〇〇!」と答えられるようにするため、覚えやすい言葉にしたり、学級目標にちなんだ学級のマスコットや旗を作り、掲示したりした。また、学級目標を下に個人の目標を立てるようにしたことで、学級目標を意識した発言が見られたり、振り返りを行ったりするなど、学級への所属意識の高まりが見られた。(学級、学年づくり)



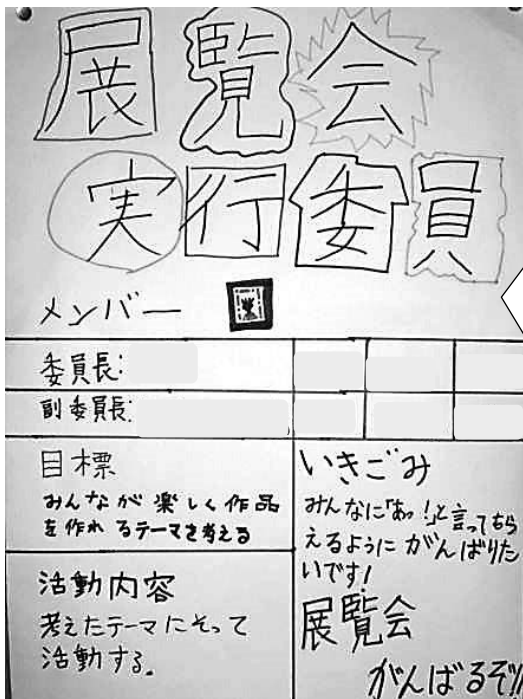
実践② 行事スローガン

○運動会のスローガン

各クラスからキーワードを出し合い、代表委員会で話し合って決めた。スローガン発表の時には言葉に合わせてポーズを決め、意欲を高めることができた。(学校づくり)



実践③ 一人一役



○行事の実行委員

学年全員が自主的に行事に参加できるよう実行委員を作った。1年間の行事から希望を取って決めた。この活動から自分たちで行事を進めていくという意識が高まった。

また6年生として、どうしたら学校全体が盛り上がるのかという工夫も考えるようになり、最高学年として積極的に学校のことを考え行動する態度を育てることができた。

(学級、学年づくり) (学校づくり)



○委員会活動

係や当番活動をはじめ、様々な場面で培った自分の役割を果たす力は、高学年になると、より一層委員会活動やクラブ活動で発揮される。

委員会の委員長発表では、最高学年の自覚をもって、各委員会から全校へ知らせることができた。1年間、学校のために役割を果たすという意欲につながった。

(学校づくり)

実践④ 学級会ノート (話し合い活動の充実)

学校行事が成功した達成感を味わったことで出された議題である。提案理由に行事の成功から学級へという流れが出てきて、提案者の学級に対する熱い思いが表れ、所属感や連帯感の高まりを感じる。

提案理由が、学級目標を踏まえて設定されていたことで、それに沿って、自分の意見をもつことができた。

(学級、学年づくり)

話し合いの めあて	提案理由	議題
みんなの力を くみよめるために 意見を 出せる 学級会 にしよう	最高学年として、行事の成功から学級へという流れが出てきて、提案者の学級に対する熱い思いが表れ、所属感や連帯感の高まりを感じる。提案理由が、学級目標を踏まえて設定されていたことで、それに沿って、自分の意見をもつことができた。	秋だ。絆を深めよう わくわく集会的 計画を立てよう

14:05 ~ 14:20	13:45 ~ 14:05	議題	提案理由	話し合いのめあて	発言ルール	決まらぬこと	役割分担	14:05 ~ 14:20
議決分 を決める	話し合い を決める	議題 を決める	提案理由 を決める	話し合いのめあて を決める	発言ルール を決める	決まらぬこと を決める	役割分担 を決める	14:05 ~ 14:20
係	〇〇の担当	〇〇の担当	〇〇の担当	〇〇の担当	〇〇の担当	〇〇の担当	〇〇の担当	〇〇の担当
理由	理由	理由	理由	理由	理由	理由	理由	理由

第六回 学級会 七月七日(月) 名前

学級会カードを活用し、議題、提案理由、話し合いのめあてを知らせたことで、見通しをもって話し合いに参加できるようになった。また、自分の考えを書く欄を設けたことで、自分の考えをもち、安心して発言できるようになった。  
(学級、学年づくり)

事前に自分の考えを記入させて、話し合いに参加する意欲を高めることができた。  
(学級、学年づくり)

話し合い活動の充実を図り、学級に対する所属意識・連帯意識が高まると、その意識が学校全体へ広がっていった。縦割り班で高学年が一つになって話し合いを進め、自主的に活動内容を企画していこうとする気持ちが高まってきた。(学校づくり)



実践⑤ 計画委員

今日の議題	2	1	自分の考えを書こう！
理由	理由	理由	理由
話し合いのめあて	話し合いのめあて	話し合いのめあて	話し合いのめあて



計画委員会の児童が、みんなに認められることで、次への活動への意欲が高まった。(学級、学年づくり)

議題選びは計画委員会を中心に自分たちで行う。候補になっている議題から、学級で話し合いたい優先順位を決めて議題を決定する。学級全員で目的意識を共有するので、意欲をもって学級会を迎えられた。(学級、学年づくり)

以上のような目的意識を共有するような実践や、役割意識が明確になるような実践を行ったことで、学級や学校に対する所属意識や連帯意識をもたせることができた。

視点2 自発的、自治的な実践力を高める

実践① 集会活動



「一致団結！わくわく集会」「秋だ！絆を深めようわくわく集会」など、みんなで楽しむ学級集会の実践を重ねてきた。実践の中で、主体的に自分に与えられた役割の責任を果たすことで、自主的、実践的な態度が育った。また、友達と楽しむことで豊かな人間関係づくりができた。(学級、学年づくり)

1学期は1年生のお世話をしたが、2学期はあまり交流する機会がなかった。児童から「1年生ともっと交流したい」という意見が出たことから、合同で集会を開いた。

1年生と手をつないで走ったり、話したりして交流するなど、最高学年として低学年のお世話を積極的に行った。(学校づくり)



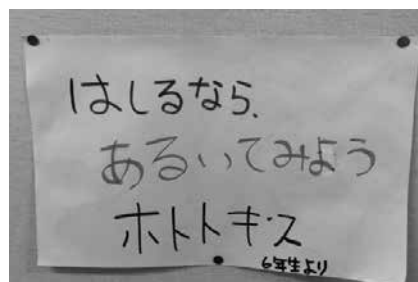
実践② 係活動



活動時間を確保するため、週に1回程度、係活動ごとに給食を食べるようにした。活動内容を仲間に向けて発信しやすくするため、各係に透明のファイルポケットやミニホワイトボードを配付した。どの係も定期的・継続的に活動を行うとともに、児童の発意・発想が生かされる活動が見られるなど、活性化した。(学級、学年づくり)

学級内の飾り係から、学校の仕事へ発展した掲示物。正しい廊下歩行を啓発するための取組として効果があり、主体的に学校づくりに参画する態度が身に付いた。

また、先生方や保護者から賞賛されることで、次の活動への意欲を高めることもできた。(学校づくり)



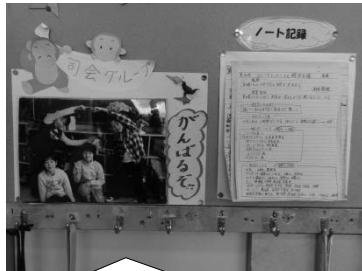
実践③ 教師の助言



学級会や集会では、会の始めや終末の助言で、この学級会や集会をやったことで学級がまた大きく成長したことを具体的に誉め、価値付けを行った。

その結果、学級会の中でよかった発言を手本にしようとする児童が増えたり、実践的な場面の中で、みんなで手伝おうといった言葉が聞かれたりするようになった。(学級、学年づくり)

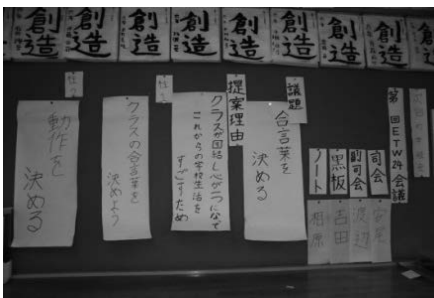
実践④ 議題箱・学級会コーナー



議題箱(袋)を設置したことで、自分たちで今の学級を振り返り、学級をよりよくするために積極的に議題を提案する姿が見られた。また、理由を書かせることで、議題ではなく理由を根拠に議題を選定するようになった。自分の学級をどうしたいのか、どうしていくのかを考え、議題を提案するようになった。  
(学級、学年づくり)

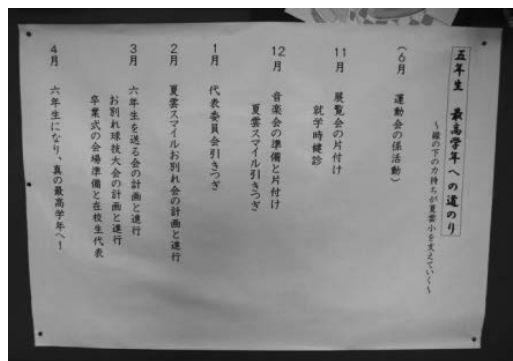
司会グループの写真を掲示したことで、司会グループの自覚と意欲が高まった。(学級、学年づくり)

実践⑤ 見通しをもった計画(活動計画の可視化)



学級会に向けて計画委員会が、議題・提案理由・決まっていること・話し合うこと(柱)・出ている意見等を掲示し、学級会までに意見の共有化を図った。  
その結果、学級会までにどんな意見が出され、どの意見に賛成なのかという自分の考えをもって学級会に臨む姿が見られた。(学級、学年づくり)

学校行事での会場準備や片付けなど、5年生後半での学校全体を支える役割を一覧表にして学年で指導した。6年生になるためのステップを、一連の流れとして捉えることができ、取組への意欲が高まった。(学校づくり)



学級会で終わらせるのではなく、集会活動を協力して行い実践を繰り返す中で自発的な活動を行うことができた。また係活動を活発に行うことで主体的に学級づくりに参画する態度が身に付き、更にそこから最高学年として主体的に学校づくりに参画する態度へと広がっていった。学級づくりや学校づくりの中で、話し合い活動や係活動、集会活動などの実践を通して、自発的、自治的な実践力を高めることができた。

視点3 自己肯定感・自己有用感を高める

実践① 振り返りカード

学級会 振り返りカード

6月27日(金)の時間目 名前( )

★がんばったこと

数が多くゆずってくれた友達に  
ありがとうと言った。  
とても感謝の気持ち。

★次の話合いでがんばりたいこと

聞くときは、しずかに聞いて、発表するときは大きな声でみんなにわかりやすいように発表する。みんなが、大好き。

★かがやいていた友達 → (ゆずった人)

(理由)  
ゆずってくれる人がいなかったら時間以内に決まっていなかったらと思うから。  
ゆずりさえ、私と決まらなかった。

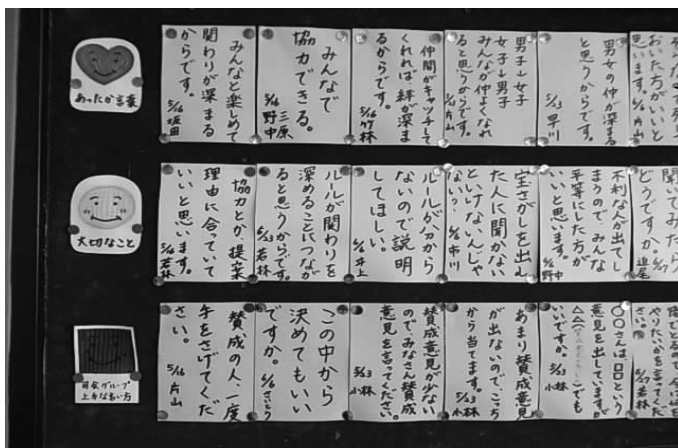
学級会の振り返りカードに、「かがやいていた友達とその理由」を記述する欄を設けた。その結果、友達のよさに気づき、お互いを高め合うことで、自己肯定感や自己有用感を高めることができた。  
(学級、学年づくり)



5年生は展覧会の会場の片付けから、学校を支える役割がスタートした。事前に学級活動(2)として学年全体で集まって指導を行い、6年生までの見通しを捉えて気持ちを高めた。事後には振り返りを行い、高学年としての役割を一つ果たすことができた自分の感想を、学級全体で交流した。これによって自己有用感を感じることができ、次の活動への意欲も高まった。(学校づくり)

私は、この展覧会の片付けをやって、一番物が重かったり、つかつかたたりしました。その時、6年生はこんなものを準備してくれました。ゆう事を知り、いろいろなこと、けんけいしました。作業もなされてきて、片付けをして、ゴミもいれ、しまいで、がんばれば、この日に、さんだんとして、あらためて感じました。そして、全部おわった時、最高学年に、ついでに、感じがしました。そして、6年生も、百夏のお話を、こえて、いこうか、と、準備が、この日に、あつて、あつて、この時、下の力持ちが、夏の雲も支える、この、本当の意味、知りました。

実践② 価値付けの可視化



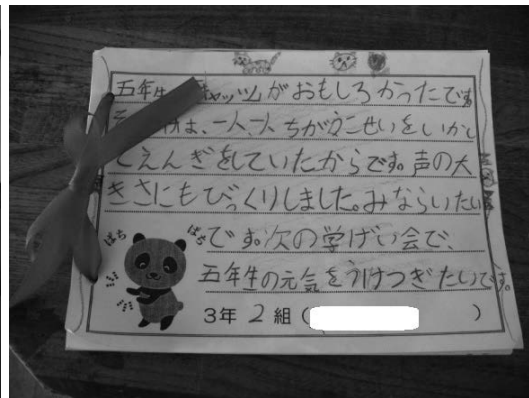
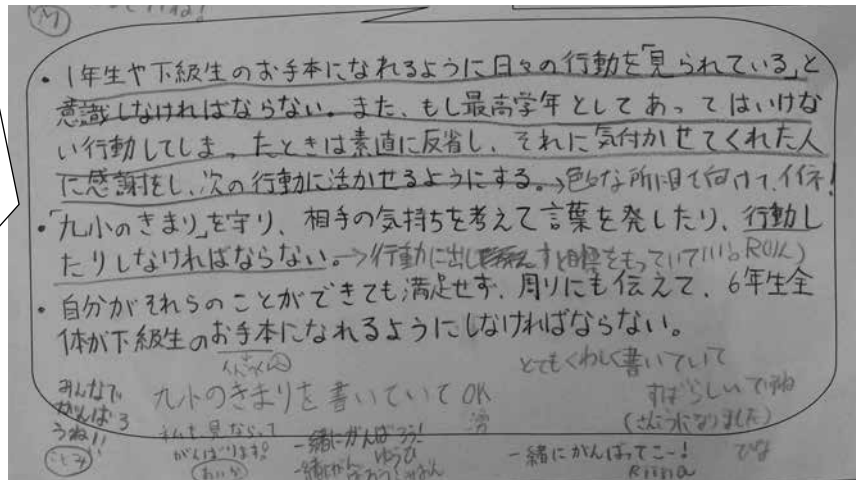
学級会での話合いを進めたり深めたりするきっかけとなった児童の発言と名前を掲示し、教師からの価値付けを可視化した。話合いに役立てたという自己有用感を高め、話合いの進め方について学びを深める場にもなった。  
(学級、学年づくり)

実践③ 友達同士の認め合い

友達同士でコメントを書き合うことを習慣化した。

日常生活や学級集会活動の中で、友達の頑張りやよさに気付くことが増えていった。友達から認められたり、励まされたり、勇気付けられたりするコメントが増えた結果、学級の一員として仲間から必要とされていることを実感することができた。

(学級、学年づくり)



学芸会を終え、他学年の発表に対して手紙を書き合い交流した。上級生からのコメントを読んで大きな達成感を感じたり、下級生から目標とされることでさらに意欲を高めたりと、異学年同士の認め合いが自己肯定感を高める手だてとなった。(学校づくり)



「6年生は緑の下の力持ちとして本当の意味で学校を支えるという意味がわかり、自分も支えていきたいという気持ちが芽生えた。(5年生児童)」「5年生の声の大きさを見習い、次の学芸会に思いを受けついでいきたい。(3年生児童)」など学級会や集会活動、学校行事の後に自分を振り返ったり、教師や友達同士、異学年から認められたりすることで、自己肯定感や自己有用感を高めることができた。



## VII 研究の成果と課題

様々な実践を積み重ねたうえで、児童の変容を知るために1月に2度目のアンケート調査を行った。この調査をもとに本研究の成果と課題を以下にまとめた。

アンケート調査結果（2回目）	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
①あなたは、何かをみんなでやることは好きですか。						49%		43%		7%	1%
②あなたは、自分たちの学級が協力できると思いますか。						38%		53%		8%	1%
③あなたは、学級のために役立つことをしていると思いますか。						10%		55%		32%	3%
④あなたは、自分のよさをわかっていると思いますか。						11%		48%		32%	9%
⑤あなたは、学級の友達のよさをわかっていると思いますか。								43%		49%	7%
⑥あなたは、学級の友達が自分のよさをわかってくれていると思いますか。								22%		48%	27%
⑦あなたは、自分の考えを安心して伝えられる学級だと思いますか。								31%		50%	15%
⑧あなたは、学級をよりよくすることができたと思いますか。								21%		51%	24%
⑨あなたは、この学級をよりよくするために困ったことや問題を友達といっしょに解決できたと思いますか。								20%		51%	23%
⑩この学級において「楽しい」と感じたのはどんな時ですか。 とても思う 思う あまり思わない 思わない											
⑪卒業まであと3か月（5年生は残りの3か月）、どのようにすごしていこうと思いますか。 ※質問⑧、⑨には記述欄も設けた。質問⑩、⑪は記述のみの回答とした。											

### 1 成果

#### ○視点1「所属意識・連帯意識をもたせる」

質問⑦「あなたは、自分の考えを安心して伝えられる学級だと思いますか。」について肯定的に捉えている児童が、7月の75%から1月は81%に増加しており、児童の所属意識・連帯意識が高まったことがうかがえる。

児童の記述を見ても「学級会で自分の意見を伝え、それが活かされたから学級をよりよくできたと思う。」「学級会を通して問題を次々と解決できた。」など、学級会で話し合い活動を多く経験し、実践に結び付けたことで達成感を得たという意見が多く見られた。さらに「みんなで学級目標を作って、それに向かって協力できていた。」「クラスの仲間の悩みについてみんなでアイデアを出し合うことができた。」など、目的意識を共有し、友達と共に問題解決をする姿勢も見られるようになった。

#### ○視点2「自発的、自立的な実践力を高める」

質問⑩「この学級において『楽しい』と感じたのはどんな時ですか。」では、「委員会で友達と一緒に問題を解決できた時。」「二小まつりや学芸会など学校行事に全力で取り組み、学校を盛り上げることができた時。」という記述が見られ、学級のみならず、学校全体への視野の広がりが感じられた。

さらに質問⑪「残り3か月、どのようにすごしていこうと思いますか。」について「学校

が更によくなるよう、実行委員会などを作って、みんなと行動していきたい。」といった、よりよい学校を作っていこうとする自発的な意欲が見られた。さらに6年生では「中学校に向けて、自分をもっとよく知って、目標に向かってがんばっていききたい」、5年生では「6年生に向けて学校のためにがんばる。」という記述が見られ、次のステップに向かって自分から進んで学校生活に関わっていこうとする姿が見られている。

### ○視点3「自己肯定感・自己有用感を高める」

質問④「あなたは、自分のよさをわかっていると思いますか」、質問⑥「あなたは、学級の友達が自分のよさをわかってくれていると思いますか。」について、肯定的に捉えている児童がそれぞれ54%から59%、63%から70%に増加した。さらに質問③「あなたは、学級のために役立つことをしていると思いますか。」についても、62%から65%に増加している。自分のよさを自分、友達共に分かっていると感じられたことで、自分が学級の中で役立っているという自覚が少しずつ育ってきたと考えられる。

児童の記述に「自分の提案した議題が実現し、みんなが楽しんでくれた。」「学級会で自分の意見を伝えたら、それが生かされた。」「自分の行動で低学年が喜んでくれた。」というものも見られた。成功体験の積み重ねや活動の振り返り、価値付けを行ってきたことで児童の自己肯定感・自己有用感が高まったと考えられる。

## 2 課題

話し合い活動を充実させることで、目的意識を共有し、友達と共に問題解決をする姿勢が見られるなど、児童の所属意識・連帯意識を高めることができた。

しかし、高学年になるほど、学校全体の役割が増え、計画委員会で打ち合わせをする時間の確保が難しくなるという課題がある。役割が増えていく中でも、児童が目的意識をもって円滑に計画委員会を進めていくことができるように、児童の発達段階に応じた計画委員会のもち方を継続していくことが重要である。児童が計画委員会の打ち合わせに慣れるまでは教師側から積極的に助言をするなどの工夫をしていく。回数を重ねる中で、児童は限られた時間の中でも自主的に打ち合わせることができるようになる。その経験が「学級のために」「学校のために」という思いにつながり、更に所属意識・連帯意識をもたせることになると考えられる。

2回目のアンケートを実施して、児童が学級全体はよくなっていると感じているが、自分自身について聞かれると肯定的に捉えられない部分があることが分かった。それは質問⑧「あなたは、学級をよりよくすることができたと思いますか。」に対して、「クラス全体ではいいクラスだと思うけれど、自分からは役に立つ行動をしなかったから。」「みんなに比べてまだできていない。」などという記述が見られたためである。児童に自信を付けるためにもどのような指導・助言が効果的であるか、検証を重ねていく必要がある。まずは教師が多様な視点を持ち、学級活動の時間に限らず学校生活全般を通して、児童の行動に対して繰り返し価値付けをしていくことが大切である。また、教師は児童同士で価値付けるような言動、場面を積極的に見つけるようにし、全体に広げていく。そうすることで、自然と児童は互いに価値付ける視点をもって認め合うことができるようになり、自己肯定感・自己有用感を更に高めていくことができると考えられる。

成果に見られるように、6年生は中学校に向けて意欲をもっている。この意欲が中学校生活でも生かされるように、小学校と中学校の連携を図ることが大切である。児童の引き継ぎを行う際には、特別活動に関する能力についての評価も伝えていく。児童が活躍できる場を小学校から積極的に中学校へ発信していくことで、児童は更に自主的に学校生活を作り上げようとする意欲をもつことができると考えられる。

以上のような課題を改善していくためにも、自分たちが中心となり、本研究で学んできたことを、学年、学校全体へと広げていくことが求められる。児童が自信をもって学級や学校生活に関わることができる特別活動を目指して、今後も研究を深めていきたい。

## 平成26年度 教育研究員名簿

### 小 学 校 ・ 特 別 活 動

地 区	学 校 名	職 名	氏 名
新 宿 区	新宿区立戸塚第一小学校	主任教諭	菊池 友也
新 宿 区	新宿区立淀橋第四小学校	教 諭	牧 富貴子
世 田 谷 区	世田谷区立経堂小学校	主任教諭	関田 裕子
豊 島 区	豊島区立池袋第一小学校	主任教諭	片山 邦夫
練 馬 区	練馬区立光が丘夏の雲小学校	主任教諭	庄司 和明
八 王 子 市	八王子市立第二小学校	主任教諭	上野 仁弥
立 川 市	立川市立第九小学校	主任教諭	◎ 米山 潤
三 鷹 市	三鷹市立南浦小学校	主任教諭	日高 千晶
小 平 市	小平市立小平第八小学校	主任教諭	安井 瞳
武蔵村山市	武蔵村山市立第九小学校	教 諭	岩本 亮介

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課

統括指導主事 萩谷 磨

課務担当係長 高寄 浩三

平成26年度  
教育研究員研究報告書

小学校・特別活動

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成26年度第186号〕  
平成27年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6849  
印刷会社 正和商事株式会社